



第37回全国都市緑化ひろしまフェア ひろしまはなのわ 2020

協賛会場 (県立3公園)

記録集



県立せら県民公園



県立びんご運動公園



県立みよし公園

令和3年3月



発行日: 令和3年3月
編集・発行: 広島県土木建築局都市環境整備課
〒730-8511 広島市中区基町10-52 TEL 082-228-2111 (代表)
※本書の無断転載・複写を禁じます。



第37回全国都市緑化ひろしまフェアの概要

1 開催概要

(1) 名称・愛称

名称：第37回全国都市緑化ひろしまフェア 愛称：ひろしま はなのわ 2020 (にーまるにーまる)



(2) 開催テーマ

全国都市緑化フェアひろしまフェア 開催テーマ

ひろしま はなのわ 2020 音楽「花笑(はなえみ)」ひろしまから花と笑顔と平和のわ 音楽

(3) 主催者等

| 区分 | 組織名 |
|------|--|
| 主催者 | 広島県、広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、府中市、三次市、庄原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、神石高原町、公益財団法人都市緑化機構 |
| 共催者 | 国土交通省中国地方整備局 |
| 提唱 | 国土交通省 |
| 実行組織 | 第37回全国都市緑化ひろしまフェア実行委員会 |

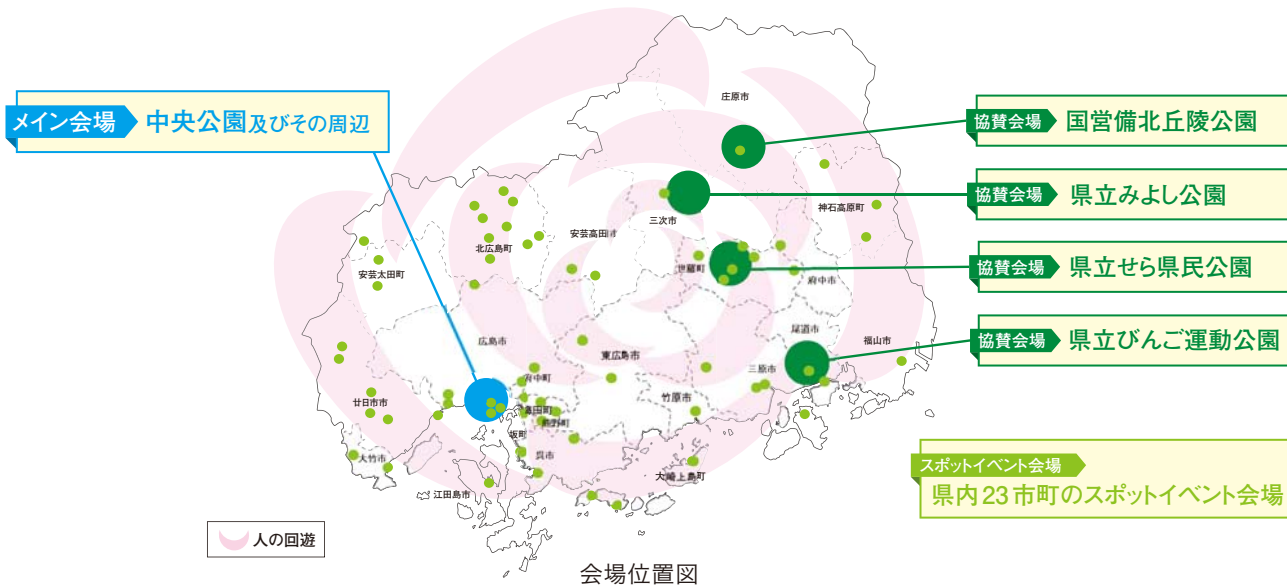
(4) 開催期間

2020年3月19日(木)～11月23日(月・祝) 250日間

(5) 会場

ひろしまフェアの会場は「メイン会場」及び「協賛会場」を拠点に、ひろしまフェアの基本理念・基本方針に沿って連携する会場を「スポットイベント会場」として県内一円で展開し、花と緑等で広島の魅力を発信します。

| 会場種別 | 会場・場所 | 開催期間 |
|------------|---|---|
| メイン会場 | 中央公園(旧広島市民球場跡地を中心とする区域)及びその周辺(広島市中区基町) | 集中展開期間：3月19日(木)～5月24日(日) 67日間 連携イベント展開期間：5月25日(月)～11月23日(月・祝) 183日間 (他会場の案内や観光・市町情報を提供、連携イベントを開催) |
| 協賛会場 | 国営備北丘陵公園(庄原市三日市町) 県立せら県民公園(世羅町黒淵) 県立びんご運動公園(尾道市栗原町) 県立みよし公園(三次市四拾貫町) | 3月19日(木)～11月23日(月・祝) 250日間 |
| スポットイベント会場 | 県内23市町のスポットイベント会場 | 2020年に開催する各スポットイベントの実施期間 |



2 開催の意義・基本理念・基本方針

(1) 開催の意義

- ア 県内一円での緑化の推進
- イ 地域づくりの担い手の育成
- ウ 地域経済の活性化
- エ 平和文化の発信と広島復興の継承

(2) 基本理念

東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、世界中から広島へ多くの人々が訪れる2020年、広島ならではの花や緑等の地域資源を活用して、県内全域で回遊と交流を生み出し、花や緑の大切さと平和の尊さを世界中の人々と分かち合い、より一層の豊かな地域づくりと世界恒久平和の実現につなげていくため、県内一円で全国都市緑化ひろしまフェアを開催します。

(3) 基本方針

● 広島を花と緑でつないでいくフェア

■ 花や緑等の地域資源の活用

花や緑、伝統文化等の地域資源を最大限活用することで、将来に向けた利用促進を目指します。

■ 花や緑等を通じた回遊性の向上

情報通信技術や公共交通サービスと連携することで、花や緑等を通じて県内一円を結び、情報の共有や新たな人の流れを生み出すことを目指します。

● 広島力を結集してみんなでつくりあげるフェア

■ 地域づくりの担い手の育成

県民団体、農業団体、民間企業、学校等、様々な主体が活動可能な展開を図ることで、花や緑に造詣の深い人材を育成するとともに、活動団体等の活性化や新たな地域デビューを促進し、地域を誇りに思い活動できる人の増加を目指します。

● 平和と広島魅力を世界に発信するフェア

■ 国内外への魅力の発信

緑化フェアの開催を契機に、国内外に向けて、県内各地の地域資源や特産品等の魅力を発信することで、更なる地方創生の推進を目指します。

■ 平和を象徴する花と緑の祭典

被爆75年となる2020年に、世界中の人々が花や緑等を通して平和の尊さを五感で体感し、発信できる緑化フェアを目指します。

協賛会場の基本的な考え方

協賛会場である国営備北丘陵公園、県立せら県民公園、県立びんご運動公園、県立みよし公園は、次の基本的な考え方に基づき、取組を展開した。

協賛会場の基本的な考え方

- 各公園の物的・人的な既存ストックを活かしながら、それぞれの会場にふさわしい出展や展示手法を取り入れた様々な協賛イベント等を開催し、各公園の特性に応じた多様な公園利用者が、花や緑のある豊かなライフスタイルなどを実感できる会場とします。
- 各公園の特性に応じたスポーツ、レクリエーション、文化活動等の多様な公園利用者、各地域のスポットイベント会場の情報発信を行い、回遊を促進する会場とします。
- 地域の企業や団体、学校、県民など、様々な主体が楽しみながら参加できる仕組みを取り入れ、豊かな地域づくりの担い手の育成につなげていきます。
- ひろしまフェアを契機に、国営公園・広域公園として地域との連携(地域情報の発信と地域住民の公園活動への参加等)をさらに高め、圏域の地域づくりに資する公園づくりへとつなげていきます。

協働推進の基本的な考え方

- 県民との協働によりひろしまフェア開催後にもつながる花と緑の取組を推進します。
- ひろしまフェアへの参加を通じて、緑化や地域づくりの楽しさを感じることが出来る取組とします。
- ひろしまフェアに参加する様々な主体のつながりを育み、地域資源の魅力向上や地域づくりの担い手育成に取り組めます。

県立せら県民公園

県立せら県民公園の設置目的

県民の安らぎ交流拠点の創出、地域交流や自然とのふれあいを通じて心身を癒し、リフレッシュできる場の創出

ひろしまフェア協賛会場としてのテーマ

花と自然とのふれあい ～花や自然とのふれあいによる観光交流の拡大～

- ・県立せら県民公園の設置目的を踏まえ、既存資源や既存イベントを活用し、地域との連携を高めながら、「花と自然とのふれあい」をテーマに、観光交流を拡大できる展開を図ります。
- ・県民による多彩な利用のある県立公園（広域公園）として、ひろしまフェアや県内各地のスポットイベント会場の情報発信に取り組みます。



トイレ 多目的兼用トイレ フォトスポット P 駐車場 レストラン Wi-Fi 情報コーナー ※はなのわ情報を展開

協賛会場マップ（県立せら県民公園）



絶滅危惧種のチョウ「ヒョウモンモドキ」の観察会（自然観察園飼育施設）



湿地に群生するサギソウの花の観察会（自然の花とのふれあいや学び）



ヒョウモンモドキのブランコ（オス）（シンボルディスプレイ）

取組内容

① 屋外展示

協賛会場のシンボルとして、花や緑と地域資源を融合させた屋外展示を行い、ひろしまフェアの周知、協賛会場の利用促進、花や緑と地域資源に親しむ体験を提供した。



ヒョウモンモドキのブランコ（写真左がメス、右がオス）をプランター花壇の花々が包み込むシンボルディスプレイ（秋）

●シンボルディスプレイ【ヒョウモンモドキのブランコ】

広島県三原市及び世羅町は絶滅が心配されるチョウ「ヒョウモンモドキ」が国内で唯一残る地域であり、せら県民公園は自然観察園の飼育施設においてヒョウモンモドキの生息域外保全を行うなど保全の拠点施設となっている。地域の宝であるヒョウモンモドキをモチーフとしたブランコ（オス1基、メス1基）とその解説板を展示し、周囲を地域と連携して植え付けたプランター花壇で包み込むように演出するとともに、花のバス停をイメージした案内板で園内の見所を案内した。シンボルディスプレイは、来場者にフォトスポットとして利用され、ひろしまフェアの周知や協賛会場の利用促進、そしてヒョウモンモドキを広く知ってもらう効果を果たした。

今後は、ブランコを「ヒョウモンモドキのチェア」として再活用し、引き続き、地域の宝であるヒョウモンモドキの周知に取り組んでいく。

●プランター花壇【通期】

広島県内産木材（広島県森林組合連合会提供）を使ったプランターに、広島県内産の花を植え付け、シンボルディスプレイの周りを季節の花で演出した。（令和2年3月、5月、9月植え付け）

●竹のトンネル、竹のドーム

シンボルディスプレイのあるのんびり草原から自然観察園につなぐ竹のトンネルや竹のドームを設置することで、来場者を自然観察園へと誘導するとともに、遊びの要素の充実化を図った。

●花や緑の地産地消の推進

シンボルディスプレイのブランコの丸太材やプランターには県内産木材を、プランター花壇の花苗には県内産花苗を使用し、そのことを来場者に紹介するための説明板を設置することにより、緑の地産地消の推進や普及啓発を行った。



広島県内産の花苗の説明板



竹のトンネル、竹のドーム



ヒョウモンモドキのブランコの解説板

② 協賛イベント

花や緑のある豊かさを幅広く楽しむ演出や体験メニューを既存イベントとのタイアップや新規イベントとして実施した。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、はなのわ2020クロスカントリー大会(3月)、田んぼの学校はなのわ分校(4月26日(日分)、はなのわ樹木講座(5月10日(日分))は中止とした。

●田んぼの学校 はなのわ分校【5月～11月】

田植え、稲刈り、脱穀等の米作りを通じ、里山の自然を体験し、杵と臼を使って餅つきを行った。ネイチャーゲームを通じ、里山の自然の不思議や仕組みなどを学びながら、人も自然の一部であることを実感した。(参加者：227人)

5月30日(土) ネイチャーゲーム…15人
6月13日(土) 田植え・ネイチャーゲーム…31人
6月20日(土) 田植え(追加)…24人
9月26日(土) 稲刈り・ネイチャーゲーム…37人
10月18日(日) 木登り体験…61人
11月1日(日) 脱穀・ネイチャーゲーム…19人
11月14日(土) お餅つき・ネイチャーゲーム・卒業式…40人



田んぼの学校 はなのわ分校 (田植え)

●はなのわ ほしぞら映画祭(サギソウ観察会)【8月9日(日)】

既存イベントである「ほしぞら映画祭」の日に合わせて自然観察園の満開のサギソウの観察会や、高所作業車に乗って「チョウのような高い目線からサギソウが咲く湿地を眺めてみよう」という子どもも楽しめるアクティビティを開催した。

参加者へのアンケート調査では、「自然観察園、サギソウを知らない」という回答が半数以上を占めたが、参加した結果、全員が「サギソウや世羅の自然への興味が高まった」「今後の自然観察園で観察会があれば参加したい」と回答した。これまで、サギソウ観察会を単独で開催してきたが、サギソウをよく知っている方の参加が大半であった。今回、ほしぞら映画祭のような多くの方が来園するイベントに合わせ、高所作業車体験のような子どもが体験しなくなるアクティビティをセットで楽しめるようにしたことで、多様な方々の自然への興味関心を高めるきっかけづくりになった。



サギソウ観察会 (チョウの目で満開のサギソウを見てみよう!)



サギソウ観察会 (ガイドによる解説)

●自然を撮ろう! ネイチャーフォト教室【9月20日(日)】

昆虫写真家である海野和男氏を講師として迎え、花や緑、自然の生き物たちの写真撮影の教室を行った。(参加者：42人)

●はなのわ樹木講座【10月3日(土)】

樹木の健康状態の判定や剪定方法を学んだ後、ドクターウッズ(樹木診断機器)を使った樹木の内部の状態の観察を実施した。(参加者：21人)

●せらの里山整備【11月8日(日)】

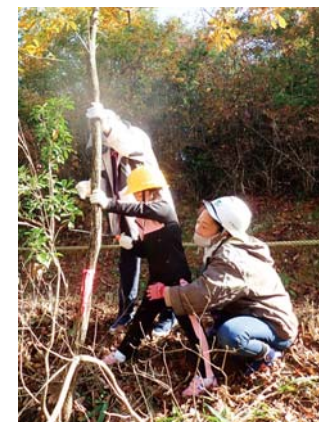
キセルアザミが自生する場所周辺の雑木林をノコギリを使って選択伐採し、里山の多様性と機能を回復した。ヒョウモンモドキほか多様な生き物の生息に適した環境に整えた。(参加者：22人)



自然を撮ろう! ネイチャーフォト教室



はなのわ樹木講座



せらの里山整備

③ 情報発信

協賛会場として、また県立の広域公園として、多様な来園者に向けてひろしまフェアのイベント情報や県内観光情報の情報発信を行い、県内の回遊性向上を促進した。

●情報発信コーナー

交流広場に情報発信コーナーを設置し、広島県内のマップに直近に開催される20ヶ所のスポットイベントの紹介、スポットイベントのチラシや県内23市町の観光パンフレットの配架を行った。同時に、情報発信コーナーへの立ち寄りを促進するため、ヒョウモンモドキの吸蜜植物として欠かせないノアザミを取り入れたお花のペーパーフラワーアートのフォトスポットブースを設置した。

また、せらワイナリーの情報コーナーには、ひろしまフェア関連のチラシ掲示板を設置した。



情報発信コーナーとペーパーフラワーアート(ノアザミ)



せらワイナリーに設置したひろしまフェアのチラシ掲示板

④ 協働推進(県民参加)

県民との協働によりひろしまフェア閉幕后にもつながる花と緑の取組を推進した。

●ヒョウモンモドキ自然保護活動

せら県民公園自然観察園をはじめ、三原市及び世羅町の各所で、絶滅危惧種のチョウ「ヒョウモンモドキ」の保護活動を行ってきた「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」の協力により、フェアをきっかけに令和元年度から、広島県立世羅高等学校農業経営科では、自然観察園に設置された飼育施設などでヒョウモンモドキについて学ぶとともに、保全活動としてチョウの蜜源となるノアザミ(ヒョウモンモドキの成虫がエネルギー源として花の蜜を吸う植物)の育苗やヒョウモンモドキ生息地への移植に取り組んだ。

また、フェアをきっかけとして、三原市の小学校(三原市立久井小学校、三原市立大和小学校)、世羅町の小・中学校(世羅町立世羅小学校、世羅町立甲山中学校)および広島県立世羅高等学校では、幼虫や蛹からチョウに羽化するまでの飼育や観察に取り組んだ。

今後とも、学校との連携により、保護活動の将来を担う地域の子どもの環境保全・自然保護の意識が高められるよう継続した取組が期待される。



広島県立世羅高等学校農業経営科の生徒によるノアザミの育成



広島県立世羅高等学校農業経営科の生徒による育成したノアザミのヒョウモンモドキ生息地への植え付け

●観光農園パネル紹介

世羅町にある花の観光農園からシーズンごとの美しい花の写真を提供していただき制作したPRサイン板を、ミニチュアガーデン※内の花の観光農園(8農園)の位置に設置した。

ミニチュアガーデン利用者へのアンケート調査では、9割以上が世羅町外からの来園であり(約4割が広島市、約3割が福山市)、約半数の方が世羅町内の花の観光農園に行った経験があった。ミニチュアガーデンに設置した花の観光農園PRサイン板は、ミニチュアガーデン利用者の約4割が観覧し、その半数の方が「世羅町内の花の観光農園への興味が高まった」と回答するなど、ミニチュアガーデンを利用する子ども連れのファミリー層への一定のPR効果を果たした。

※世羅高原をミニチュア化し、地域の歴史・文化・観光施設をわかりやすく紹介した地図ガーデン(遊具広場)



子ども連れのファミリー層の利用が多いミニチュアガーデンに設置した世羅町内の花の観光農園のPRサイン板

●特別支援学校ウェルカムプランターづくり

交流広場で来場者をお出迎えしたウェルカムプランターは、広島県立黒瀬特別支援学校の生徒がパンジーとチューリップの球根を植え付けて、開幕までの間、学校で栽培を行った。

開幕前の令和元年10月から11月にかけて、県職員が学校に出向き、植え付けの出張授業を行った。その際、生徒(18名)が怪我をしないよう、柔らかい不織布プランターを使用した。



広島県立黒瀬特別支援学校により植え付け、育成されたウェルカムプランター

●プランター花壇づくり

令和2年9月に、「花の駅せら」の大島達也氏を講師に迎え、世羅町老人クラブ連合会の13名の皆さんが、ヒョウモンモドキのプランコを囲う県産木製プランター(32基)への花苗植え付けに参加した。

※令和2年3月、5月の県民参加による花苗植え付けは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。



世羅町老人クラブ連合会の皆さんによる花苗植え付け

県立びんご運動公園

県立びんご運動公園の設置目的

備後地域住民のスポーツと多様なレクリエーション活動の振興

ひろしまフェア協賛会場としてのテーマ

花とレクリエーション ～花に包まれて遊ぶ豊かさをつくる～

- ・県立びんご運動公園の設置目的を踏まえ、既存資源や既存イベントを活用し、地域との連携を高めながら、「花とレクリエーション」をテーマに、花や緑に包まれて遊ぶ豊かさが感じられる展開を図ります。
- ・県民による多彩な利用のある県立公園(広域公園)として、ひろしまフェアや県内各地のスポットイベント会場の情報発信に取り組みます。



トイレ 多目的兼用トイレ フォトスポット 駐車場 レストラン Wi-Fi 情報コーナー ※はなのわ情報を展開

協賛会場マップ(県立びんご運動公園)



地域との連携による公園の花の魅力づくり(地元の幼稚園児の種まきによるナノハナの花迷路)



キッズ夏休み緑化工作講座(草木染(マリーゴールドでバッグをつくる))



尾道帆布のプランコ(シンボルディスプレイ)

取組内容

① 屋外展示

協賛会場のシンボルとして、花や緑と地域資源を融合させた屋外展示を行い、ひろしまフェアの周知、協賛会場の利用促進、花や緑と地域資源に親しむ体験を提供した。



リュウキュウアサガオによる花の迷路(夏～秋)

●花の迷路【通期】

春はナノハナ(新高山めぐみ幼稚園の園児が種まき)、夏から秋はリュウキュウアサガオの花の迷路を育て、多くの来園者を楽しませた。

●シンボルディスプレイ【尾道帆布のブランコ】

尾道市の地域資源である尾道帆布に含まれるハンモックのブランコと解説板を展示し、周囲を地域と連携して植え付けた花々(プランター花壇、たねダンゴ®花壇)で包み込むように演出するとともに、花のバス停をイメージした案内板で園内の見所を案内した。シンボルディスプレイは来場者にフォトスポットとして利用されることにより、ひろしまフェアの周知、協賛会場の利用促進、圏域内の地域資源のPRとしての効果を果たした。

今後は、ブランコを「尾道帆布のチェア」として再活用し、引き続き尾道帆布等の地域資源の活性化に取り組んでいく。

●プランター花壇【通期】

広島県内産木材(広島県森林組合連合会提供)を使ったプランターに、広島県内産の花を植え付け、シンボルディスプレイの周りを季節の花で演出した。(令和2年3月、5月、9月植え付け)

●たねダンゴ®花壇【通期】

春の花壇は新高山めぐみ幼稚園の園児、夏の花壇は公園利用者がたねダンゴ®を植え付け、シンボルディスプレイの周りを美しい花で演出した。

●フラワーカーペット【通期】

彩り豊かな花々と「しまなみ海道サイクリングロード」などの備後圏の象徴的なモチーフをコラボレーションしたフラワーカーペットを演出した。(令和2年3月、7月植え付け)

●花や緑の地産地消の推進

シンボルディスプレイのブランコの丸太材やプランターには県内産木材を、プランター花壇の花苗には県内産花苗を使用し、そのことを来場者に紹介するための説明板を設置することにより、緑の地産地消の推進や普及啓発を行った。



尾道帆布のブランコとプランター花壇



たねダンゴ®花壇(春、夏～秋)



フラワーカーペット(春)

② 協賛イベント

花や緑のある豊かさを幅広く楽しむ演出や体験メニューを既存イベントとのタイアップや新規イベントとして実施した。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、びんごはびねす花笑グリーンマルシェ(3月)、グリーン♥フラワーシェア体験イベント(6月)は中止とした。

●びんごたね図書館【通期】

備後地域に花や緑が広がっていくことを願ってフェアを機会に始めた取組であり、公園近隣の皆さんが持ち寄られた自宅で採れた花や野菜の種を来園者が自由に持ち帰る仕組みとした。

最初は種のシェアだけであったが、利用者からの提案により植物の苗のシェアも増えていった。びんご運動公園を拠点として、種や苗の広がりと同時に人のつながりが広がる取組となっており、引き続き、取組を継続していく。



たね図書館に来園者が持ち寄った種(袋には「何の種か」、「どこで採れた種か」、「いつ撒けばよいか」を記入してもらう)



【赤】:種(苗)ができた場所、【緑】:種(苗)を植えた場所

●はなのわテニスクリニック【7月18日(土)】

センターコートハードコートお披露目のために山陽女学園の選手による硬式テニス教室を開催し、参加者全員で「はなのわドリームメッセージ」の書き込みを行った。(参加者:100人)

●キッズ夏休み緑化工作講座【8月2日(日)】

親子と一緒に、木々や植物を使った工作物を楽しみながら作ることで、花や緑に興味や関心をもってもらうとともに、生活の中に取り入れるきっかけづくりとなった。(参加者:150人)

- ・木工教室(恐竜づくり)
- ・バスボム講座(ハーブを使いおもちゃ入りバスボムづくり)
- ・草木染(マリーゴールドでバッグをつくる)



「はなのわドリームメッセージ」の書き込み

●椿の森再生プロジェクト&びんごプチガーデンをつくろう!【10月24日(土)】

【椿の森再生プロジェクト】

参加者の皆さんと力を合わせて、椿の森を気持ちの良い散歩コースに再生させた。高所作業車に乗って、秋空から広大な公園の大パノラマも楽しむことができた。

参加者へのアンケート調査では、高所作業車体験を目的に来園された方もおられ、「花や緑(自然)への興味・関心が高まった」「体験をきっかけに花や緑(自然)を楽しむ生活をしてみたい」との感想が多く寄せられたことから、高所作業車体験のようなアクティビティと緑の管理作業体験を組み合わせることで、多様な興味関心を持つ人々に活動が広がる効果が感じられた。

【びんごプチガーデンをつくろう!】

小さな丸い花壇に、様々な花やハーブを植えて、参加者だけの庭づくりを行った。自然を楽しみ、自然と触れ合い、癒しの時間を過ごすことができた。



キッズ夏休み緑化工作講座(木工教室(恐竜づくり))



椿の森再生プロジェクト



びんごプチガーデンをつくろう!

●びんごはびねす花笑 Autumn マルシェ【11月15日(日)】

花や緑にちなんだハンドメイドグッズ、地元食材を使ったグルメや野菜などの販売、ニュースポーツ「パルクール」実演やダンスパフォーマンスなどのマルシェイベントの中で、花や緑に親しむ「多肉植物寄せ植え体験」や「木工教室」、「樹木医相談コーナー」を開催した。

寄せ植え体験参加者へのアンケート調査では、参加者の8割がマルシェをきっかけに寄せ植え体験に参加しており、「花や緑への興味・関心が高まった」「体験をきっかけに花や緑を楽しむ生活をしてみたい」との感想が多く寄せられた。

花や緑の体験催事をファミリー層をはじめ多彩な方々が集まるイベントの中で開催することは、単独で開催することに比べて、イベント全体の魅力や満足度を高めるだけでなく、多様な興味関心を持つ人々が花と緑に触れ、生活に花や緑を取り入れる県民の裾野を広げていく効果があると感じられた。



地元食材を使ったグルメや野菜の販売ブース



多肉植物寄せ植え体験

③ 情報発信

協賛会場として、また県立の広域公園として、多様な来園者に向けてひろしまフェアのイベント情報や県内観光情報の情報発信を行い、県内の回遊性向上を促進した。

●情報発信コーナー

健康スポーツセンターのロビーに情報発信コーナーを設置し、広島県内のマップに直近に開催される20ヶ所のスポットイベントの紹介、スポットイベントのチラシや県内23市町の観光パンフレットの配架を行った。同時に、情報発信コーナーへの立ち寄りを促進するため、尾道市を代表する花である因島の除虫菊を取り入れたお花のペーパーフラワーアートのフォトスポットブースを設置した。

また、コミュニティプールのロビーには、ひろしまフェア関連のチラシ掲示版を設置した。



情報発信コーナーとペーパーフラワーアート(除虫菊)



コミュニティプールに設置したひろしまフェアのチラシ掲示版

④ 協働推進(県民参加)

県民との協働によりひろしまフェア閉幕後にもつながる花と緑の取組を推進した。

※雨天により、県民参加によるフラワーカーペットの植え替え(7月)は中止とした。

●特別支援学校ウェルカムプランターづくり

健康スポーツセンター前の広場で来場者をお出迎えしたウェルカムプランターは、広島県立尾道特別支援学校、広島県立三原特別支援学校、広島県立沼隈特別支援学校の生徒がパンジーとチューリップの球根を植え付けて、開幕までの間、学校で栽培を行った。

開幕前の令和元年10月、県職員が学校に出向き、植え付けの出張授業を行った。その際、生徒(75名)が怪我をしないよう、柔らかい不織布プランターを使用した。



広島県立特別支援学校(尾道、三原、沼隈)の生徒により植え付け、育成されたウェルカムプランター

●プランター花壇づくり

令和2年9月に、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア推進協議会」の正本大氏を講師に迎え、尾道市グランド・ゴルフ協会(尾道)の12名の皆さんが、冒険の森に設置した尾道帆布のプランコを囲う県内産木製プランター(42基)への花苗植え付けに参加した。

※令和2年3月、5月の県民参加による花苗植え付けは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。



尾道市グランド・ゴルフ協会(尾道)の皆さんによる花苗植え付け

●たねダンゴ®花壇・花の迷路づくり【春】

「冒険の森」では、令和元年10月に、グリーンアドバイザー広島市の皆さんと、新高山めぐみ幼稚園の約70名の園児がたねダンゴ®づくりと植え付けに参加した。また、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア推進協議会」の協力のもと、「花の迷路」のナノハナの種まきにも参加した。

令和2年6月のたねダンゴ®花壇の植え替え時には、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア推進協議会」の協力のもと、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じたうえで、22名の公園利用者がたねダンゴ®づくりと植え付けに参加した。



新高山めぐみ幼稚園の園児によるたねダンゴ®植え付けとナノハナ種まき

●はなのわドリームメッセージ

ひろしまフェア期間中のイベントに参加した約200名の児童が、尾道市立大学美術学科の古賀匠弥氏が描いた鯉の絵(3m×6m)に、夢や元気のあふれるメッセージを書き込み、作品を完成させた。



完成した「はなのわドリームメッセージ」

県立みよし公園

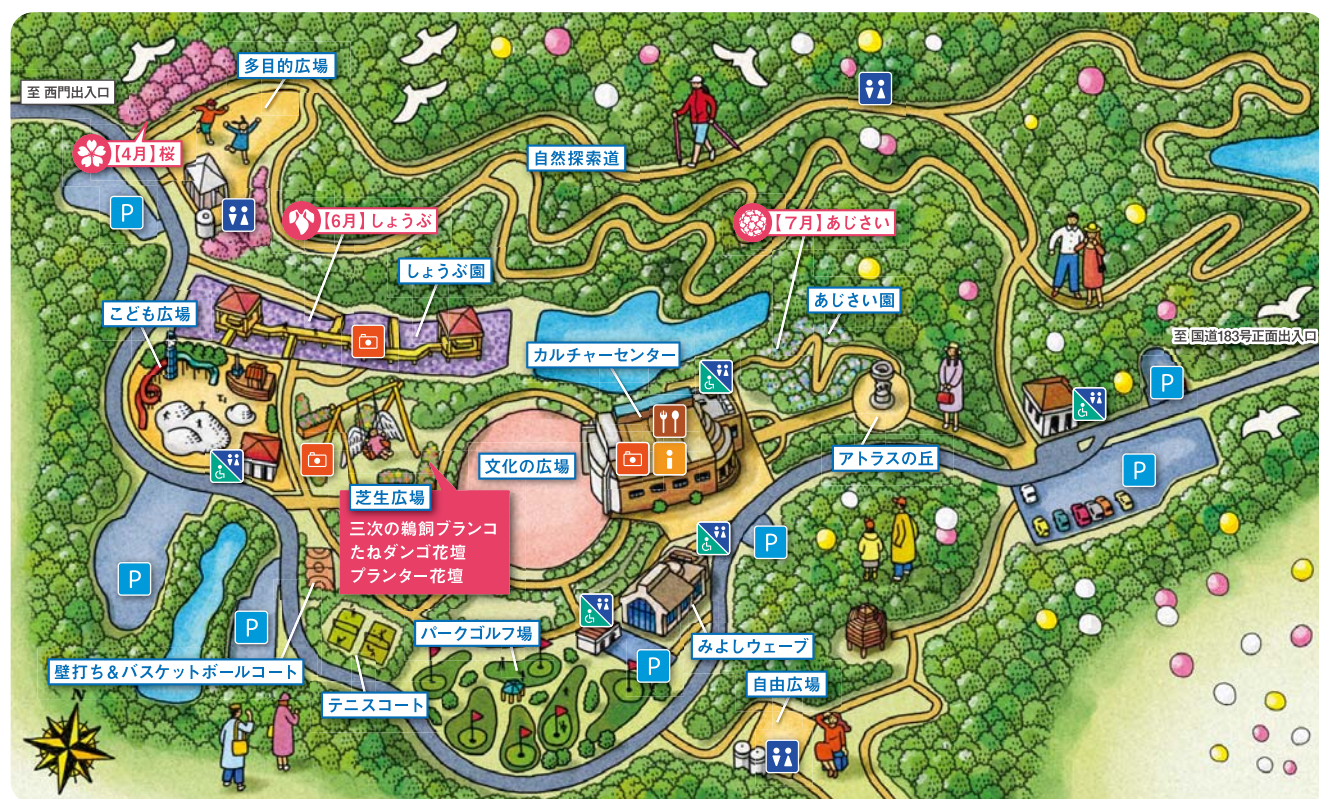
県立みよし公園の設置目的

備北地域住民の文化及びスポーツと多様なレクリエーション活動の振興

ひろしまフェア協賛会場としてのテーマ

花と文化 ～花を楽しむ公園文化の豊かさをつくる～

- ・県立みよし公園の設置目的を踏まえ、既存資源や既存イベントを活用し、地域との連携を高めながら、「花と文化」をテーマに、花を楽しむ公園文化の豊かさが感じられる展開を図ります。
- ・県民による多彩な利用のある県立公園（広域公園）として、ひろしまフェアや県内各地のスポットイベント会場の情報発信に取り組みます。



トイレ 多目的兼用トイレ フォトスポット 駐車場 レストラン Wi-Fi 情報コーナー ※はなのわ情報を展開

協賛会場マップ(県立みよし公園)



地域との連携による既存資源の魅力化(しょうぶ園の和傘演出)



既存イベントと花を楽しむ体験の組み合わせ(みよし青空マルシェ・寄せ植え体験)



三次の鶺鴒ブランコ(シンボルディスプレイ)

取組内容

① 屋外展示

協賛会場のシンボルとして、花や緑と地域資源を融合させた屋外展示を行い、ひろしまフェアの周知、協賛会場の利用促進、花や緑と地域資源に親しむ体験を提供した。



三次の鶺鴒ブランコをプランター花壇、たねダンゴ®花壇の花々が包み込むシンボルディスプレイ(秋)

●シンボルディスプレイ【三次の鶺鴒ブランコ】

三次市の観光資源である伝統行事「三次の鶺鴒」の鶺鴒をモチーフとしたブランコ(白い鶺鴒1基、黒い鶺鴒1基)と解説板を展示し、周囲を地域と連携して植え付けた花々(プランター花壇、たねダンゴ®花壇)で包み込むように演出するとともに、花のバス停をイメージした案内板で園内の見所を案内した。シンボルディスプレイは来場者にフォトスポットとして利用されることにより、ひろしまフェアの周知、協賛会場の利用促進、圏域内の地域資源のPRとしての効果を果たした。

今後は、ブランコを「三次の鶺鴒チェア」として再活用し、引き続き三次の鶺鴒等の地域資源の活性化に取り組んでいく。

●プランター花壇【通期】

広島県内産木材(広島県森林組合連合会提供)を使ったプランターに、広島県内産の花を植え付け、シンボルディスプレイの周りや公園入口を季節の花で演出した。(令和2年3月、5月、9月植え付け)

●たねダンゴ®花壇【通期】

幼児から大人まで、誰でも泥ダンゴを作る要領で楽しみながら簡単に種から花を咲かせることができる新しい種まきの手法「たねダンゴ®」により、春の花壇は三次中央幼稚園の園児、夏の花壇は公園利用者がたねダンゴ®づくりを行い、シンボルディスプレイの周りを美しい花で演出した。

●花や緑の地産地消の推進

シンボルディスプレイのブランコの丸太材やプランターには県内産木材を、プランター花壇の花苗には県内産花苗を使用し、そのことを来場者に紹介するための説明板を設置することにより、緑の地産地消の推進や普及啓発を行った。



花のバス停をイメージした案内板



公園入口のウェルカムプランター花壇

② 協賛イベント

花や緑のある豊かさを幅広く楽しむ演出や体験メニューを既存イベントとのタイアップや新規イベントとして実施した。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、みよしはなのわ市(3月)、みよし青空マルシェ～はなのわ～ TAKE-1 グランプリ予選会同時開催(4月)、はなのわ樹木講座(5月)、はなのわガーデニング教室(5月、6月)は中止とした。

●サマーフェスティバル～はなのわ～【8月9日(日)】

花や緑にちなんだハンドメイドグッズ、地元食材を使ったグルメなどのブースや緑に囲われた広場に噴水遊びコーナーを設置した。(参加者：380人)

●はなのわガーデニング教室

【8月17日(月)】「秋まで長時間楽しめる寄せ植え」をテーマに7種類の花を使用した寄せ植え教室を実施した。(参加者：8人)

【10月19日(月)】「秋の庭園風寄せ植え」をテーマとした寄せ植え教室を実施した。(参加者：9人)

●みよし青空マルシェ～はなのわ～【10月4日(日)】

秋の都市緑化月間に開催され、来場者が多く人気のある「みよし青空マルシェ～はなのわ～」の中で、花や緑にちなんだハンドメイドグッズや地元食材を使ったグルメなどのブース出店、フェアをきっかけにみよし公園で初めて開催された「TAKE-1 グランプリ予選会」に加えて、花や緑に親しむ「寄せ植え体験」や「木工教室」を行った。

寄せ植え体験の参加者へのアンケート調査では、全参加者がマルシェをきっかけに参加し、「花や緑への興味・関心が高まった」「体験をきっかけに花や緑を楽しむ生活をしてみたい」との感想が多く寄せられた。

花や緑の体験催事をファミリー層をはじめ多彩な方々が集まるイベントの中で開催することは、単独で開催することに比べて、イベント全体の魅力や満足度を高めるだけでなく、多様な興味関心を持つ人々が花と緑に触れ、生活に花や緑を取り入れる県民の裾野を広げていく効果があると感じられた。



サマーフェスティバル～はなのわ～
(緑に囲われた噴水遊びコーナー)



はなのわガーデニング教室



公園内の樹林を活かした緑のフォトスポットブース



寄せ植え体験

●はなのわ樹木講座【10月4日(日)】

ドクターウッズ(樹木診断機器)を使った樹木内部の診断を公開し、樹木の内部の状態の観察を行った。(参加者：11人)

●花の公園づくりプロジェクト【11月17日(火)】

「あじさい園」において、アジサイの歴史や種類、育て方についての講習や、アジサイの補植及び枝挿し等の体験を実施し、魅力ある「あじさい園」づくりの取組に着手した。(参加者：12人)



はなのわ樹木講座



花の公園づくりプロジェクト(あじさい園の土壌改良作業)

③ 情報発信

協賛会場として、また県立の広域公園として、多様な来園者に向けてひろしまフェアのイベント情報や県内観光情報の情報発信を行い、県内の回遊性向上を促進した。

●情報発信コーナー

カルチャーセンターのロビーに情報発信コーナーを設置し、広島県内のマップに直近に開催される20ヶ所のスポットイベントの紹介、スポットイベントのチラシや県内23市町の観光パンフレットの配架を行った。同時に、情報発信コーナーへの立ち寄りを促進するため、県立みよし公園を代表するハナショウブを取り入れたお花のペーパーフラワーアートのフォトスポットブースを設置するとともに、公園利用者が製作したランプの作品が彩りを加えた。

また、みよしウェーブ(プール)のロビーには、ひろしまフェアの関連のチラシ掲示版を設置した。



情報発信コーナーとペーパーフラワーアート(ハナショウブ)



みよしウェーブ(プール)に設置したひろしまフェアのチラシ掲示版

④ 協働推進(県民参加)

県民との協働によりひろしまフェア閉幕后にもつながる花と緑の取組を推進した。

●プランター花壇づくり

令和2年9月に、県立みよし公園ガーデニング教室主催者の安西秀礼氏を講師に迎え、ガーデニング教室の9名の皆さんが、芝生広場に設置したシンボルディスプレイを囲う県内産木製プランター(32基)への花苗植え付けに参加した。

※令和2年3月、5月の県民参加による花苗植え付けは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。



県立みよし公園ガーデニング教室の皆さんによる花苗植え付け

●たねダンゴ®花壇づくり

芝生広場に設置したシンボルディスプレイを花で演出するため、令和元年10月に、グリーンアドバイザー広島の皆さんと一緒に、三次中央幼稚園の約60名の園児がたねダンゴ®づくりに参加した。

令和2年6月の植え替え時には、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア推進協議会」の協力のもと、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じたうえで、7名の公園利用者がたねダンゴ®づくりと植え付けに参加した。



三次中央幼稚園の園児によるたねダンゴ®づくり



しょうぶ園の和傘による演出



和傘の演出が加わった満開のしょうぶ園を楽しむ来園者



「三次の四季」をテーマに絵付けされた和傘



広島県立三次中学校・高等学校美術部による和傘の絵付け

●しょうぶ園の和傘による演出

地域との連携により、県立みよし公園の既存資源であるしょうぶ園の魅力や認知度の向上に取り組んだ。
 具体的には、しょうぶ園の満開の時期に合わせて、広島県立三次中学校・高等学校美術部が制作した「三次の四季」をテーマとした色鮮やかな和傘を配置し、一体的な風景としてハナショウブの花が映える演出を行った。
 来園者へのアンケート調査では、しょうぶ園来園者の9割が市外からであり、「印象的」「三次らしくてよい」「若い人が地域を盛り上げようとしていることが素晴らしい」など好評であった。取り組んだ生徒へのヒアリングでは「三次の魅力を再発見して発信する機会をいただいた」という感想が寄せられ、地域への愛着を育み、地域を盛り上げるためにみんなで取り組む達成感が得られる機会を提供できたものと思われる。
 なお、当初計画では和傘に加えて三次市で活動する生け花団体による竹のインスタレーションを一体的に組み合わせた演出を行う計画だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により竹の準備活動が実施できず、和傘のみでの演出となった。

総括

協賛会場（県立3公園）では、各公園や地域の持つ物的・人的な地域資源を生かし、広域公園として地域と連携して様々な主体の参加を促しながら、花や緑のあるライフスタイルの豊かさの普及、県内全域の回遊や観光交流の増加に取り組むことで、より一層の豊かな地域づくりの実現に取り組んだ。

フェア開催期間中（3月19日～11月23日）の3公園（無料施設のみ）の来場者数は475,022人であり、4月～6月は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出の影響もあり対前年比で減少したが、それ以外の3月及び7月～11月は全て対前年比で増加した。

●県立3公園の来場者数（無料施設のみ） （単位：人）

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 合計 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 前年実績 | 29,485 | 67,351 | 82,759 | 59,617 | 55,517 | 54,621 | 64,861 | 57,153 | 52,631 | 523,995 |
| ひろしまフェア(R2年) | 30,959 | 43,077 | 44,318 | 48,794 | 56,483 | 56,985 | 70,602 | 68,620 | 55,184 | 475,022 |

※端数処理のため第37回全国都市緑化ひろしまフェア公式記録集に記載の合計数値と異なる。 ※びんご運動公園については、前年は「冒険の森」閉鎖（H31.3～R2.3）のため、前々年実績としている。

ひろしまフェアでの取組は、一過性のものとせず継続していくことにより、はじめて持続的で発展的な効果が期待できることから、開催の意義に照らして各公園での取組を次のとおり整理した。今後は、ひろしまフェアでの取組を継承し、発展させることで、花と緑を活用したより一層の豊かな地域づくりを推進していく。

フェアの意義

協賛会場（県立3公園）での取組

県内一円での緑化の推進

花と緑をツールとして、地域資源や公園資源を活用し、**魅力的で豊かなライフスタイルを推進する取組**

花や緑を楽しみ、生活に花や緑を取り入れる県民の裾野を広げるための体験や講座を実施した。

| 県立せら県民公園 | 県立びんご運動公園 | 県立みよし公園 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●各種協賛イベント（P5） ・田んぼの学校 はなのわ分校 ・はなのわ ほしぞら映画祭 ・自然を撮ろう！ネイチャーフォト教室 ・はなのわ樹木講座 ・せらの里山整備 | <ul style="list-style-type: none"> ●各種協賛イベント（P10～11） ・びんごたね図書館 ・はなのわテニスクリニック ・キッズ夏休み緑化工作講座 ・椿の森再生プロジェクト ・びんごブチガーデンをつくろう！ ・びんごはびねす花笑 Autumn マルシェ | <ul style="list-style-type: none"> ●各種協賛イベント（P15） ・サマーフェスティバル～はなのわ～ ・はなのわガーデニング教室 ・みよし青空マルシェ～はなのわ～ ・はなのわ樹木講座 ・花の公園づくりプロジェクト |

地域づくりの担い手の育成

花と緑をツールとして、地域資源や公園資源を活用し、**地域を誇りに思い活動できる人が増え、地域間の人材交流が盛んな地域にしていく取組**

地域の子どもから大人までが花や緑（自然）豊かな公園づくりに参加し、公園や地域への愛着を高めた。

| 県立せら県民公園 | 県立びんご運動公園 | 県立みよし公園 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●せらの里山整備（P5） ●ヒョウモンモドキ自然保護活動（P6） ●特別支援学校ウェルカムプランターづくり（P7） ●プランター花壇づくり（P7） | <ul style="list-style-type: none"> ●椿の森再生プロジェクト（P10） ●びんごブチガーデンをつくろう（P10） ●特別支援学校ウェルカムプランターづくり（P12） ●プランター花壇づくり（P12） ●たねダンゴ®花壇づくり（P12） ●はなのわドリームメッセージ（P12） | <ul style="list-style-type: none"> ●花の公園づくりプロジェクト（P15） ●プランター花壇づくり（P16） ●たねダンゴ®花壇づくり（P16） ●しょうぶ園の和傘による演出（P17） |

地域経済の活性化

花と緑をツールとして、地域資源や公園資源を活用し、**県内全域の観光交流が増え、持続的に経済が活性化する地域にしていく取組**

花や緑の既存資源を魅力化し、情報発信を行い、公園および全県的な観光交流の増加に取り組んだ。

| 県立せら県民公園 | 県立びんご運動公園 | 県立みよし公園 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●シンボルディスプレイ（P4） ●竹のトンネル・竹のドーム（P4） ●花と緑の地産地消の推進（P4） ●情報発信コーナー（P6） ●観光農園パネル紹介（P7） | <ul style="list-style-type: none"> ●シンボルディスプレイ（P9） ●花の迷路（P9） ●フラワーカーペット（P9） ●花と緑の地産地消の推進（P9） ●椿の森再生プロジェクト（P10） ●情報発信コーナー（P11） | <ul style="list-style-type: none"> ●シンボルディスプレイ（P14） ●花と緑の地産地消の推進（P14） ●花の公園づくりプロジェクト（P15） ●情報発信コーナー（P16） ●しょうぶ園の和傘による演出（P17） |

